

外国語/基礎科目

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
基礎英語	英語を基礎から学び直す	町田 直子	1年次通年
講義の目的	この講義の目標は、既存の英語力を活かし、それをさらに別の角度から高めていくことです。英語は中高で必修ゆえこれまで学習してきた時間は数え切れないと思いますので、英語の知識は皆さんお持ちだと思います。そうは言っても忘れてしまっているものもあると思いますので、英語の記憶を呼び起こし、それをベースに実力養成をしていきたいと思っています。		
到達目標	英文の構造を理解することができる。辞書を適切に使うことができる。辞書を使って語彙力を増やすことができる。		
講義内容	文法、語彙力、会話表現、リスニングを中心に講義を進めていきます。テキストは2週で一つのユニットを終わりにしていきます。前半をリスニング、語彙力に、後半を文法、リーディングに的を絞って進めていきます。		
講義スケジュール	第1講	リスニング：音の同化①	
	第2講	文法：接続詞と前置詞の区別	
	第3講	リスニング：音の連結①	
	第4講	文法：仮定法	
	第5講	リスニング：音の脱落①	
	第6講	文法：品詞	
	第7講	リスニング：音の同化②	
	第8講	文法：不定詞	
	第9講	リスニング：音の脱落②	
	第10講	文法：分詞	
	第11講	リスニング：ingの発音	
	第12講	文法：形容詞・副詞	
	第13講	リスニング：アメリカ英語の特徴①	
	第14講	文法：知覚・使役動詞	
	第15講	中間復習	

講義スケジュール	第16講	リスニング：アメリカ英語の特徴②
	第17講	文法：動名詞
	第18講	リスニング：音の脱落③
	第19講	文法：受動態
	第20講	リスニング：助動詞の発音①
	第21講	文法：完了形
	第22講	リスニング：音の連結②
	第23講	文法：5文型
	第24講	リスニング：助動詞の発音②
	第25講	文法：助動詞
	第26講	リスニング：音の弱化
	第27講	文法：関係代名詞
	第28講	リスニング：助動詞の発音③
	第29講	文法：否定
	第30講	総合復習
指導方法	<p>テキストのウォームアップ、リーディングを予習事項とします。予習の段階で必ず「わからないこと」を明確にしましょう。</p> <p>それを受講者と話し合っ解決に導いていきたいと思ひます。</p>	
授業外学習	<p>各ユニットが終わったら復習プリントを配布します。配布された翌週に答え合わせをし、フィードバックしていきまひす。</p>	
成績評価方法	<p>本試験(筆記試験)50%、平常点(レポート)10%、平常点(授業内テスト)20%、平常点(発表・発言)(20%)</p>	
テキスト	<p>『English with Pop Hits ヒットソングで学ぶ総合英語』 (成美堂)</p>	
参考書	<p>『フォレスト英文法』(桐原書店)</p>	
事項記	<p>この授業は英語を基礎から復習しながら講義を進めていきまひす。苦手意識があるけれど少しでも克服したい、というやる気のある学生の受講が望ましいです。</p>	

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
検定英語	英語資格試験対策	小池 知之	1年次通年
講義の目的	当講義においては、既にある程度の基礎英語力（英検準二級程度）があることを前提とした学生に4年生大学編入や就職時に求められる英語資格試験等に対する実力養成を目的とする。具体的には英検二級程度合格を目的とする。		
到達目標	英検の準二級から二級の合格を最大の目標とする。		
講義内容	当面英検準二級、二級合格を目指し、そのために必要となる英単語、英文法の修得、復習を行う。さらに模擬試験的演習と解説を繰り返し実力を養う。		
講義スケジュール	第1講	英文の成り立ち-S, V, O, Cを中心に英文構造を理解する。	
	第2講	文の種類-第1から第5文型の構造を理解する。	
	第3講	動詞と文型-文型別に頻出する動詞を理解する。	
	第4講	動詞と時制-時制に伴う文法の確認。	
	第5講	英検模試1	
	第6講	英検模試1解説	
	第7講	助動詞 助動詞の成り立ちと動詞との関係	
	第8講	「態」能動態と受動態の関係と違い	
	第9講	分詞と動名詞 構造の違いを理解する。	
	第10講	不定詞 3用法を理解する。	
	第11講	英検模試2	
	第12講	英検模試2解説	
	第13講	比較 比較級と最上級	
	第14講	関係詞 関係代名詞と関係副詞を理解する。	
	第15講	英検模試3	

講義 スケジュール	第 16 講	英検模試 3 解説
	第 17 講	疑問文 疑問文各種を理解する。
	第 18 講	否定 二重否定など否定文各種の理解
	第 19 講	話法 直接、間接法の理解
	第 20 講	英検模試 4
	第 21 講	英検模試 4 解説
	第 22 講	強調、倒置 構文からの理解
	第 23 講	挿入 構造の理解
	第 24 講	省略 構文の理解
	第 25 講	同格 構文の理解
	第 26 講	英検模試 5
	第 27 講	英検模試 5 解説
	第 28 講	準動詞を使った節や句構造、分詞構文を中心に理解する。
	第 29 講	関係詞節の特殊構造、関係副詞、複合関係詞節を中心に理解する。
	第 30 講	総復習 総合演習と解説を行う。
方 指 法 導	講義と演習方式の併用で行う。更に単語テスト、小テスト、確認テスト等のテストを行う。英検模試を定期的に取り入れる。	
学 授 習 業 外	目標とする英検合格のために、英語に触れる機会を極力作ること。授業の予習、復習はもとよりリーディングやリスニングを計画的に日常生活に取り入れる事を強く望む。	
成 績 方 法 評 価	本試験（筆記試験）60%、平常点（授業内での発言、発表）30%、平常点（レポートおよび授業内テスト）10%	
ス テ キ	フォレスト英文法（桐原書店）、データベース 4500（桐原書店）	
参 考 書	英検 2 級全問題集（旺文社）	
事 特 項 記	初回の授業にてレベルチェックのプレースメント試験を行う。このプレースメント試験を未受験の場合は履修を認めない。	

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
中国語A	生活中国語	山口 隆正	2年次前期
講義の目的	中国は、国土の広さ、人口の多さともにアジア最大の国である。世界の人口の1/4が中国語母語話者とも言われ、英語よりも多いくらいである。生活に関わる中国・中国人・中国語を習得することが当講義の目的である。		
到達目標	中国語を使って日常会話や意思疎通、案内ができるようになること。		
内容講義	中国語の基本的な発音から、日常会話を経て、文法事項を随時、授業の中に含めていく。「使える中国語」を身につけてほしい。		
講義スケジュール	第1講	発音の基礎を覚えよう。	
	第2講	発音の復習と簡単な挨拶など。中国語の発音を身につける。	
	第3講	発音練習。自分の名前を中国語で表現する。	
	第4講	他の人の紹介をしてみよう。	
	第5講	行動について表現してみよう。	
	第6講	月日と曜日、時間の言い方を学ぼう。	
	第7講	家族のことを紹介しよう。	
	第8講	存在の表現を学ぼう。場所の言い方をしてみよう。	
	第9講	復習。今まで学習したことを使って、実際の会話を言ってみよう。	
	第10講	希望表現を言ってみよう。	
	第11講	比較表現を言ってみよう。	
	第12講	時間表現を言ってみよう。	
	第13講	可能表現を言ってみよう。	
	第14講	中国事情を話し合ってみましょう。	
	第15講	復習。今まで学習してきたことを使って、実際の会話を言ってみよう。	
方法指導	授業に臨む前（予習）段階で、各課の該当ページを一読し、文法事項を確認し、毎回の授業の復習はしておきましょう。		
授業外学習	毎回の授業前には新出語句の確認をしておきましょう。また、毎回の授業後には復習をしっかりとっておきましょう。		
成績評価方法	本試験（本文の読みの完成度）30%、平常点（授業内での発音練習・授業態度を含めた姿勢）70%		
テキスト	LETS TRY! すぐに使えるカンタン中国語 宮本大輔・温琳 共著 朝日出版社		
書籍参考	授業内で指示します。		
事項記	中国・中国語・中国人に興味のある学生は授業に参加してみてください。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
中国語B	生活中国語	山口 隆正	2年次後期
講義の目的	中国は、国土の広さ、人口の多さ共にアジア最大の国である。世界の人口の1/4が中国語母語話者とも言われ、英語よりも多いくらいである。生活に関わる中国・中国人・中国語を習得することが当講座の目的である。		
到達目標	中国語を使って日常会話や意思疎通・道案内等ができるようになること。		
講義内容	中国語の基本的な発音から、日常会話を経て、文法事項を随時、授業中に導入をしていく。「使える中国語」を身につけて欲しい。		
講義スケジュール	第1講	前期授業の復習。	
	第2講	日常挨拶の表現。	
	第3講	動詞と目的語。	
	第4講	否定の言い方。	
	第5講	疑問の言い方。	
	第6講	数の言い方。	
	第7講	月・日・時間の言い方。	
	第8講	「～は～です」の言い方。	
	第9講	お金の数え方。	
	第10講	「有」の使い方。	
	第11講	「的」の使い方。	
	第12講	場所に関する前置詞「到」「往」などの使い方。	
	第13講	動作の進行と持続の言い方。	
	第14講	程度の言い方。	
	第15講	復習。今まで学習してきたことを使って、実際の会話を言ってみよう。	
指導方法	講義中心よりも、耳で聞き、口を動かすことを中心に授業を進めていく。日常会話を十分に習得できるように進めていく。		
授業外学習	毎回の授業にあたって新出語句に目を通し、文法事項に注意を払うようにしておくこと。また、毎時間後の復習を十分に積んでおくこと。		
成績評価の方法	本試験（本文の読みの完成度）30%、平常点（授業内での発音練習・授業態度を含めた姿勢）70%		
テキスト	LET TRY! すぐに使えるカンタン中国語 宮本大輔・温琳 共著 朝日出版社		
書籍参考	授業中に随時、紹介する。		
事項記	中国・中国語・中国人に興味のある学生は授業に参加してみてください。		